

2008. 12. 25 第45号



地域づくりコミュニケーション
— 農村振興メールマガジン —

農林水産省農村振興局



◆◇ 目次 ◇◇

【 農村振興支援情報 】

■ 美しい農村を守り育むために

◇農地・水・環境保全向上対策の取組

「日本一のスモモの里づくりに向けて」

～山梨県南アルプス市塩前地区『塩前スモモの里づくりの会』～

◇農村コミュニティ活性化の取組

～新潟県魚沼市福山新田地区

『NPO法人 野外教育学修センター魚沼伝習館』～

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇ふるさとに遊び、農業体験に学ぶ

～新潟県長岡市栖吉町『農の駅 あぐらって長岡』～

◇農村の里山景観の保全活動

～三重県多気郡明和町明星地区『NPO法人うにの郷クラブ』～

◇定住促進活動による地域の活性化

～和歌山県東牟婁郡那智勝浦町色川地区～

■ 報告・お知らせ

◇平成20年度「立ち上がる農山漁村」有識者会議の開催（12／8）

◇グリーンツーリズム大賞2008表彰式の開催（12／10）

◇新往来第31号を発行しました（12／15）

◇【研修生募集中！】地域産業マネージャー育成研修（農林水産省補助事業）

◇農山漁村（ふるさと）地域力発掘支援モデル事業 モデル地区の追加募集
のお知らせ

◇新たな食料・農業・農村基本計画の策定に向けて
～意見・要望募集～

（注）平成21年度農村振興局予算概算決定の概要は、次号（第46号）に掲載
します。

■ 美しい農村を守り育むために

◇農地・水・環境保全向上対策の取組

「日本一のスモモの里づくりに向けて」

～山梨県南アルプス市塩前地区『塩前スモモの里づくりの会』～

南アルプスの麓にある、その名も南アルプス市は、山梨県西部に位置し、モモ、ブドウ、サクランボ、スモモといった果物を栽培している県内でも有数の果樹産地です。

そして、塩前地区は南アルプス市の北西部に位置し、一級河川御勅使川の扇状地の水はけの良い土壌を活かしたスモモづくりが盛んな地域であり、「日本一のスモモの里づくり」を目指している地域です。

しかしながら、山地に隣接することから、近年、サルやイノシシ、カラスといった鳥獣による被害のほか、スモモの果実を食い荒らすシンクイムシ類による被害が発生しています。

本地区では、これらの被害に対処するため、農地・水・環境保全向上対策を活用し、共同・営農活動に地域ぐるみで取り組んでいます。

共同活動では、鳥獣から農作物を守るための防護柵の設置・保守点検、また、水路の泥上げや農道の補修といった取り組みのほか、農道脇に花壇をつくるなど環境美化活動にも取り組んでいます。

また、農薬使用の低減を図りつつ、シンクイムシ類の被害を抑えるための防除体系を確立すべく、試行錯誤を繰り返した結果、交信攪乱剤を利用した減農薬防除体系を確立しました。

昨年度から、地域におけるスモモ農家のほとんどがこの減農薬防除に取り組んでおり、環境にやさしい営農活動が定着しています。

このように、農地・農業用施設の保全活動を通じ地域の結束力が高まるとともに、環境にやさしい減農薬防除作業に取り組むことで、スモモ産地としてのイメージアップに努めようとしています。

(農地資源課農地・水・環境保全対策室企画班)

◇農村コミュニティ活性化の取組

～新潟県魚沼市福山新田地区

『NPO法人 野外教育学修センター魚沼伝習館』～

魚沼市は、新潟県の南東部に位置し、冬は3メートルもの積雪がある豪雪地帯で、日本の原風景をそのままに、四季折々の景色を堪能できる自然豊かな地域です。

NPO法人 野外教育学修センター魚沼伝習館は、人々が自然に親しみ、心豊かに成長するための支援団体として平成17年に設立され、魚沼市及び南魚

沼市の大自然をフィールドとした野外教育活動を行うとともに、魚沼市福山新田地区において、福山体験工房（旧福山小学校）を拠点とした地域づくり活動（森林整備、定住促進活動）を行っています。

平成19年度には、農村コミュニティ再生・活性化支援事業を活用して、田舎暮らし希望者を対象としたワークショップや定住相談会を定期的を開催し、田舎暮らしへの不安解消に努めました。

また、「米作り塾」「畑作り塾」と称した通年の農業体験や林業実技研修など、地域資源を活かした就業の仕組みづくりを田舎暮らし希望者と地域住民との協同で行いました。

これらの活動を通じて、「田舎暮らし希望者」は、地域を理解し、地域住民との交流を深め、「福山新田地区への移住希望者」になりました。

今年度は、魚沼市のさらなる知名度向上を図るとともに、「移住希望者」の移住定住の実現に向けて、就業の仕組みづくりと地域住民との人間関係の構築をさらに進めていこうとしています。

皆さんも魚沼市で、まずは「田舎暮らし」を「体験」してみたいはいかがでしょうか。

活動の詳細はこちらのHPからご覧下さい。

<http://www.uonuma-denshukan.com/>

(都市農村交流課定住促進班)

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇ふるさとに遊び、農業体験に学ぶ

～新潟県長岡市栖吉町『農の駅 あぐらって長岡』～

「農の駅 あぐらって長岡」は、都市に住む人々や次世代を担う子どもたちにもふるさと体験や農業体験の場を提供することにより、農業の振興、農村の活性化及び市民の福祉向上を図るため、平成4年に建設された施設です。

周辺には、「東山ファミリーランド」「市営スキー場」「市営牧場」「自然観察林」「東山ふれあい農業公園」といった自然の魅力を存分に体感できる施設が隣接しています。

あぐらって長岡では、農畜産物加工体験（ハム・ソーセージ、みそ、とうふづくり等）や農業・農村体験（田植え、稲刈り、さつまいもの苗植え・収穫、棚田オーナー等）ができます。

本施設での農業体験を通じて農業に魅力を持った人たちが、区画の借入を行い、農業を行うようになり、その数は、本施設の建設当初は20組程度だったのに対し、現在では90組にも増えました。

今後も引き続き、農業の魅力やイベントに関する情報を発信することで、都市住民との交流を進めていこうとしています。

あぐらって長岡に関する詳細は、次のホームページをご覧ください。
<http://www.aglatte.net/aglatte.html>

(北陸農政局農村振興課)

◇農村の里山景観の保全活動

～三重県多気郡明和町明星地区『NPO法人うにの郷クラブ』～

三重県多気郡明和町は、町の総面積の約半分（2,000ha）を水田が占める平地農業地域ですが、明星地区は齋王参向古道、伊勢街道、熊野詣で道の

3つの歴史古道が交錯する地域で、この古道周辺には自然豊かな森林が残されていることから、町内で唯一里山景観の残る地域です。

NPO法人うにの郷クラブは、この里山の豊かな自然の保全・再生のため、うにの郷自然体験工房を拠点として、小学校の総合学習や自然体験活動等を行っています。

具体的には、里山と古道の整備やビオトープ（水生植物園、ホタルの小川・菅田）の再生、竹炭づくりのほか、竹炭や竹酢液を利用した有機栽培や地産地消運動等を行っています。

先月23日には、当法人主催の「秋の里山体験フェスティバル」が開催され、県内の子供達と保護者約80人が参加しました。参加者は、竹を切ったり、倒

木を運んだりして里山の整備に貢献したほか、昼食に竹筒ご飯や餅を食べ、竹炭工作づくりを体験する等、1日楽しく里山の自然に触れあいました。

(東海農政局農村振興課)

◇定住促進活動による地域の活性化

～和歌山県東牟婁郡那智勝浦町色川地区～

色川地区は、「マグロ」と「那智の滝」で有名な那智勝浦町の北西部に位置し、標高200～400mの急峻な山肌に9集落が形成され、かつては鉱山と林業

の村として栄えていましたが、鉱山の閉鎖や林業の不振による人口減少と若者

の村離れが原因で、過疎・高齢化が進んでおりました。

過疎・高齢化の進展による集落社会の崩壊を避けるため、色川地区では、昭和52年の有機農業に取り組むIターン者の受け入れに始まり、平成7年度には、

山村生活体験や農業実習のための拠点となる「籠ふるさと塾」を開設し、定住促進のためのプログラムを整備する等、新規定住者への支援を継続的に実施しています。

これら取組の結果、新規定住者は、62世帯165名と人口の約3分の1を占めるまで増加し（平成20年11月末現在）、行事や祭りを含め様々な活動を維持する上でも大きな力を発揮しています。

今後は、農山漁村地域力発掘支援モデル事業のモデル地区として、定住促進活動との連携を図りつつ、情報発信や体験・交流プログラムの開発・拡充等に

よる「人との輪」の拡大を図り、円満地公園や産品販売所「色川よろず屋」を核とした農産物販売、各種体験プログラム、地域食材を利用したレストラン、

景観整備などの取組みにより「色川丸ごとブランドづくり」を進めていこうとしています。

（近畿農政局農村振興課）

■ 報告・お知らせ

◇平成20年度「立ち上がる農山漁村」有識者会議の開催（12／8）

平成20年12月8日（月）、平成20年度「立ち上がる農山漁村」有識者会議が首相官邸で開催されました。

会議では、農山漁村活性化に取り組む方々6名を招いて、麻生総理、石破農林水産大臣をはじめとした政府関係者、林良博座長（東京大学大学院教授）をはじめとした有識者会議委員とで意見交換が行われました。

意見交換では、農山漁村活性化に取り組む方々から、各々の活動における取組が周辺地域など外部にどのような波及効果を与えているか、また自身の取組をどのよう

に発展させているかなどについて紹介があった後、麻生総理からは、特にリーダーの重要性について、また、石破農林水産大臣からは、「失敗談も含めて現場の声をよく聞いて、地域活性化の取組を持続的なものとする方策を考えたい」とのコメントがありました。

その後、農山漁村活性化の先駆的取組として、「立ち上がる農山漁村」47事例が選定されるとともに、選定事例に他の団体の模範となるような支援・協力を行っている企業や大学等の6団体が、「立ち上がる農山漁村～新たな力～」として選定されました。

「立ち上がる農山漁村」の選定事例及び有識者会議の詳細については、次のホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/soutyo/tatiagaru/index.html>

(都市農村交流課活性化推進班)

◇「グリーンツーリズム大賞2008表彰式」の開催(12/10)

「グリーンツーリズム大賞2008」の表彰式が12月10日(水)に東京都千代田区の如水会館で開催されました。

本表彰は先駆的なグリーンツーリズム活動を顕彰する目的で、毎日新聞の主催、農林水産省他の後援で2003年から毎年実施されています。

今回は岩手県釜石市の団体「かあーちゃんずハウス舌鼓市場宝来館」が大賞の農林水産大臣賞に選ばれ、中條農村振興局長から表彰状が授与されました。

その他各賞の受賞団体は、次のとおりです。

- 優秀賞：静岡県袋井市「どんどこあさば(安間啓一社長)」
長崎県小値賀町「NPO法人アイランドツーリズム協会(小辻隆治郎理事長)」
熊本県西原村「山田牧場(山田政晴社長)」
- 奨励賞：沖縄県伊江村「伊江島観光協会(山城克己会長)」
- 特別賞：東京都新宿区「ふるさと情報館(佐藤彰啓代表)」

詳細については毎日新聞のホームページをご覧ください。

<http://mainichi.jp/enta/travel/green/index.html>

(都市農村交流課グリーンツーリズム班)

◇新往来第31号を発行しました(12/15)

地域からの情報提供をもとに、年4回発行している都市と農村の交流情報誌、新往来第31号を発行しました。

本誌では、都市と農村の地域間交流をテーマに地域が行っているさまざまな取組やイベント情報などを紹介しており、今号では、定住や二地域居住などの

取組のほか、来年1月～3月に開催予定の地域のイベント情報などを掲載しています。

これから、交流活動を進めていこうと考えている都道府県、市町村や各種団体の担当者の皆様、ぜひ、参考にしてみたいはいかがでしょうか。

また、本誌は、皆様からいただいた情報により構成されています。全国に発信したい情報がありましたら、次のホームページをご覧ください。

お待ちしております。

<http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/sinourai/index.htm>

(農村計画課農村政策班)

◇【研修生募集中！】地域産業マネージャー育成研修(農林水産省補助事業)

本事業では、農村地域の活性化に取り組みたいと考えている方等を対象に、地域づくり・産業振興に向けて地域をリードし主体的に活動する人材「地域産業マネージャー」の育成を目的とした研修会を開催しています。

(全5回の開催となっており、うち2回は終了しておりますが、ご都合の良い研修会にだけ参加いただくことが可能です。)

● 実地研修会

日時 : 平成21年1月14日(水)～16日(金)
場所 : 新潟県上越市西部中山間地域 桑取谷
内容 : (体験実習+講義)かみえちご地域における伝統行事(小正月行事)への参加を通じて、地域で生きる哲学、具体的な事業運営、特に地域との関わり方について考える
講師 : 関原 剛氏(NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部 専務理事)
福井 隆氏(東京農工大学院生物システム応用科学府 客員教授)
政所 利子氏(株式会社玄 代表取締役)
募集定員 : 7名程度、全国で地域の価値向上につながる活動をしている方、地域での産業活性化や地域活性化の担い手になることを目指す方(社会人、大学生など年齢性別職業問いません)
参加費用 : 1泊につき10,000円(資料費、宿泊・食事費込み)
途中参加、途中帰宅も可とします(費用は相談)
※1月10日(土)までにお申し込みください。

- 中央研修会 日時:平成21年1月24日(土)
(後半1) 場所:八重洲ダイビル第2会議室(東京駅八重洲口)
- 中央研修会 日時:平成21年2月14日(土)
(後半2) 場所:八重洲ダイビル第2会議室(東京駅八重洲口)

本研修会へ参加するには、事前申し込みが必要となりますので、参加を希望される方は、お早めにお申し込みください。詳細は、次のホームページをご覧ください。

<http://www.landbrains.co.jp/hitodukuri/chiiki/index.html>

問い合わせ先:ランドブレイン株式会社
電話:03-3263-3811(代)

(都市農村交流課定住促進班)

◇農山漁村(ふるさと)地域力発掘支援モデル事業 モデル地区の追加募集のお知らせ

本年度からスタートした農山漁村(ふるさと)地域力発掘支援モデル事業は、地域住民や都市住民等が主体となって行う地域資源の保全・活用を通じた活性

化を目指すモデル的な取組を支援するものです。

このたび、平成20年度第2次補正予算において、モデル地区の追加募集（全国で50地区程度）を行います。

公募期間は平成20年12月25日（木）～平成21年1月23日（金）となっていますので、モデル地区として応募される地域協議会（今後設立予定を含む）の方は、公募要領に記載されている地方農政局等へお問い合わせください。

なお、本事業の概要及び公募要領等の詳細については、農林水産省のHPをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/soutyo/sien_model/

（都市農村交流課活性化推進班）

◇新たな食料・農業・農村基本計画の策定に向けて
～意見・要望募集～

食料・農業・農村基本計画は、施策の基本理念と実現を図るために基本となる事項を定めるもので、おおむね5年ごとに変更していることから、この度、

新たな基本計画の検討を開始することとしました。平成22年春を目途に新たな基本計画を策定する予定です。

また、透明で開かれた政策決定プロセスを取る観点から、国民の皆様から御意見・御要望を広く募集し、食料・農業・農村政策審議会における議論に活用させていただきたいと考えております。

詳しくは、次のホームページをご覧ください。

「基本計画の策定に向けて」

http://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/

「御意見・御要望募集」

http://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/iken.html

◆◇ 編 集 後 記 ◇◆

2008年も残すところあと数日となりました。その2008年が実は、「国際イモ年」だったということをご存じでしょうか？

「国際イモ年」にちなんで今回は、ジャガイモの栄養分について、ご紹介したいと思います。一見でんぷんしか無いように思われますが、ビタミンやミネラル、ポリフェノール等、色々な栄養分があり、中でも、ビタミンCが豊富で100グラム当たりに含まれる量は、ミカンと同じだそうです。しかも、ビタミンCは熱に弱いと言われますが、ジャガイモの場合は、でんぷんに守られているため、加熱しても失われにくいそうです。

ジャガイモを含めイモ類は身近な食材であり、おせち料理の1品として食べられる方もいらっしゃるかもしれませんが、食べ過ぎには注意したいものです。

それでは皆さま、よいお年をお迎えください。(M)

◆◇ ご意見をお寄せ下さい ◇◆

本メールマガジンに対する皆さまの声を遠慮なくお寄せください。また、皆さまの地域での活動や取組の紹介などもお願いします。皆さまからのご質問・ご意見、地域の活動などの情報につきましては、可能なかぎり回答あるいは紹介させていただきます。

本メールマガジンに関するご質問・ご意見等については、次の農村振興局「ご意見・お問合せ窓口」のサイトから送信をお願いします。その際、様式の「テーマ」欄には“農村振興メルマガ宛”を必ず記載してください。

https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=12

農村振興メールマガジンのバックナンバーは次のサイトでご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/nouson/maimagazine/index.html>

■ 編集発行

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局農村政策部農村計画課（担当）増田

TEL:03-3502-6001 FAX:03-3501-9580
